



テーマ:副鼻腔炎



1. 副鼻腔炎とは

鼻のまわりの骨にある「副鼻腔」という空洞部分に細菌やウイルスが感染することなどによって炎症が起こる病気です。

2. 主な症状

鼻づまり、鼻水、頭痛、顔面痛、頬の痛み、歯の痛み、額の痛み、咳、痰

3. 副鼻腔とは

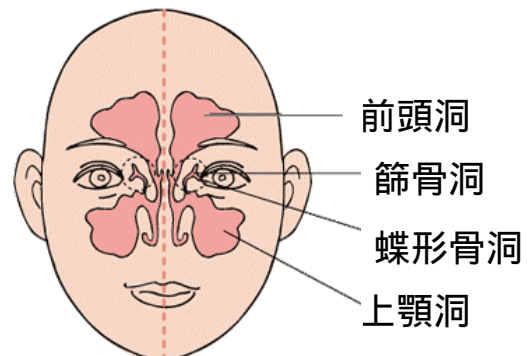
鼻の穴の中のことを「鼻腔」といいますが、

この鼻腔の周りには、骨で囲まれた

空洞部分が左右それぞれ4個ずつ、

合計8個あり、鼻腔とつながっています。

この空洞部分が「副鼻腔」です。



4. 副鼻腔炎の原因

風邪などウイルスや細菌が原因で鼻の炎症が起こる場合。

細菌感染のないアレルギー性鼻炎や気管支喘息、アスピリン喘息などのアレルギーが原因となって起こる場合。

咽頭炎や扁桃炎などのどの炎症、真菌(=カビ)、虫歯などが原因となる場合。

症状が3ヶ月以上続くと慢性副鼻腔炎と診断されます。

特に花粉がたくさん飛んでいるこの時期は、アレルギー性鼻炎に注意する必要があります。



アレルギー性鼻炎を放置してしまうと慢性化してしまい、慢性副鼻腔炎(この場合はアレルギー性副鼻腔炎と呼ばれる)が起こることがあります。

5. 治療の種類

薬物療法

風邪などウイルスや細菌が原因となって起こる副鼻腔炎は、抗菌薬を服用することが一般的です。

アレルギーが原因となって起こる副鼻腔炎は抗菌薬に加えて抗アレルギー薬を服用します。

抗菌薬を続ける期間は急性副鼻腔炎では通常2週間です。慢性副鼻腔炎では少量の抗菌薬を長期間飲み続ける場合もあります。

その他に痰や鼻水を出しやすくする薬などが使われます。また場合により症状を抑える薬を服用します。

【抗菌薬】抗生物質など。

【抗アレルギー薬】アレグラ(フェキソフェナジン)、アレジオン(エピナスチン)、アレロック(オロパタジン)など。

【痰や鼻水を出しやすくする薬】ムコダイン(カルボシステイン)、ムコソルバン(アンブロキシソール)など。

【症状を抑える薬】頭痛や顔面痛などの症状が重い時にはアスピリンなどの解熱鎮痛薬を使うことがあります。

その他の治療方法としては、鼻吸引、ネブライザー療法、鼻洗浄、手術療法があります。

鼻水、鼻づまりなどの症状が長く続くようなら

一度医療機関を受診してみてもいいでしょうか

(参考資料: アステラス製薬なるほど病気ガイド、fukubikuuen.net、かわいいフリー素材集いらすとや)

